

子どもの健康と病気の予防③

- 子宮頸がんワクチン(HPVワクチン) -

小宅医院 小宅民子

子宮頸がんは予防できるからです。

子宮頸がんワクチン(HPVワクチン)接種と定期的な検診が重要です。

子宮頸がんは、子宮の頸部にできるがんです。年間約1万人が罹患し、約3000人が亡くなっています。がんの中でも若年層で発症する割合が比較的高いのが特徴で、20代から増え始め、40代をピークにその後徐々に減少していきます。

子宮頸がんの主な原因は、ヒトパピローマウイルス(HPV)の感染です。HPVは主に性交渉で感染します。約200種類の型があり、がんと関連するのはおよそ15種類です。感染しても多くは自然に排除されますが、持続感染するとがんになる可能性があります。

HPVワクチンは、子宮頸がんの原因となるHPVの感染を防ぐ予防接種です。初めての性交渉前までに接種すると予防効果が高まります。

公費で受けられるHPVワクチンは「9価ワクチン(シルガード®9)」となります。HPVワクチンは1回のみの接種ではなく、ワクチンの種類や年齢によって、同じ種類のワクチンを合計2回から3回接種する必要があります。

定期接種の対象者は小学6年生から高校1年生相当の女子です。高校1年相当の年度の3月31日まで、定期予防接種として無料で接種することができます。

HPVワクチンの接種後には、接種部位の痛みや腫れ、赤みなどの症状が起こることがあります。接種直後に失神や立ちくらみが起きる可能性があります。そのため、30分程度安静にします。接種後に体調の変化があった場合は、医師に相談してください。

ワクチンで防げないHPVの型もあることや、早期発見のため、20歳を過ぎたら子宮頸がん検診を定期的な受けることが推奨されています。

「子宮頸がんワクチン(HPVワクチン)」の5つのポイント!

- ①子宮頸がんの主な原因は、ヒトパピローマウイルス(HPV)の感染
- ②HPVワクチンは、子宮頸がんの原因となるHPVの感染を防ぐ予防接種
- ③初めての性交渉前までに接種すると予防効果が高まる
- ④定期接種の対象者は小学6年生から高校1年生相当の女子
- ⑤子宮頸がん予防には、HPVワクチン接種と定期的な子宮頸がん検診が重要

